

みちのくしおかぜのみち

～6月9日、1000kmの自然歩道全線開通～

人、土地、時間を歩いてつなぐ

2011年3月の震災後、環道省では、三陸地域の復興の歩みに沿い、沿線自治体や関係団体と連携し、東北太平洋沿岸各地を歩いて結ぶ自然歩道を作ってきました。名称は「みちのく潮風トレイル」。

北は青森県八戸市から南は福島県相馬市まで、従来のハイキングコースや、車道沿い、道のないところは新しく道をひらき、全線をつないで総延長1000kmに及びます。

世界に例のない被災地の自然歩道

世界には様々なロングトレイル（長距離自然歩道）がありますが、災害で被災した地域の復興にあわせて設定された歩道は他に例をみません。

沿線自治体では、災害復旧、住民の生活再建が第一、その中で役場担当者や地元観光協会、NPO団体等が、地域の復興再生の一環として歩道建設にご協力くださいます。

旅行者等様々な人が沿線を訪ね、地域の風光や産物を愛で、また癒やされ、再び人の交流がさかんになることを願います。

渡船で海をわたる区間もあり

東北太平洋沿岸部は、谷あいに開けた平

地の集落や、昔からの農林漁業など生業の場が展開する風景が続きます。ウミネコの鳴き声が頭上に舞い、魚や貝などの海産物、地物の野菜などを取り扱う店も目にとまります。

仙台平野では、古代城柵や、江戸時代からの運河沿いをたどる区間があります。

三陸の断崖直下の砂浜は震災で地盤が沈み、汀沿いに岩を掘り窪めた隧道が波をかぶるようになったため、崖上の台地の自然林に付け替えられた道もあります。

松島湾沖や牡鹿半島の一部では、定期船や渡船を使って海をわたる区間もあります。

2012年福島

私事ですが震災翌年の2012年以降、福島におり、ほぼ6年間放射能汚染対策に携わりました。初期、福島県内外での被災住民説明会や市町村議会に呼ばれ、よく指摘されたことがあります。

「だから国はだめなんだ。いつも自分の仕事や自分の都合ばかり説明しようとする。

そうではなく、まず地元の話や思いを聴くのが最初ではないか。地元のことをもっと学び、それからではないか、自分の話をするのは。」

2019年2月盛岡

今年夏までにみちのく潮風トレイル全線開通が見込める状況になり、その報告にと2月、盛岡へ、岩手県庁や岩手日報社を訪ねました。報道幹部から、トレイルのルートになる地域で、三陸鉄道全線開通、ジオパークの推進、震災伝承の道設定など、国や県、地元の様々なセクターの取り組みがあり、その連携が大切との指摘がありました。

三陸等沿線へのお礼

2月以降、青森から福島まで各自治体役場に首長をお訪ねし、改めて、被災後の筆舌に尽くせぬ8年の時間、その中の地元復興へのご尽力、その上でみちのく潮風トレイルが成り立つことのお礼をお伝えし、地元のお話を伺っています。青森、岩手、宮城、福島各県、三陸鉄道他交通機関、経済団体の皆様等様々な関係者と連携して、トレイルの活用を進めていきたいと思えます。

岩手県内には盛岡（県庁前）、宮古（浄土ヶ浜）、大船渡（碓石海岸）に環境省の国立公園等事務所があり、総勢6名（内男性1名）で、地域の取り組みやお問合せ等ご連絡をお待ちしております。改めて、どうぞ宜しくお願い致します。



環境省
東北地方環境事務所
所長

小沢 晴司